

# 山中だより

山中 してもらう  
キャッチ させられる人から  
フリース する人へ

枚方市立山田中学校 学校通信 第28号 その1

発行 令和2年3月16日 校長 交久瀬 善浩

## ◆◆今年度最後の山中だよりとなりました◆◆



コロナウイルスによる臨時休業で、1・2年生の皆さんには学年最後の修了式ができなくなってしまいました。臨時休業になってからの約2週間どのように過ごしていましたか？しっかりと家庭学習ができた・自分で探した課題で調べ学習などができたという人もいるかもしれません。逆に、テレビやゲーム・スマホに没頭して学習は何もせずに、昼夜逆転したという人もいるでしょう。この間の過ごし方は、主体性がある人とそうでない人の差がすごく出たのではないかと思います。この後もしばらく臨時

休業や春季休業が続きますので、自分で何をすべきかしっかりと考え、過ごしてほしいと思います。

過ぎた時間は戻らないとうことを認識し、心して日々を過ごしましょう。

ところで、この1年間はあなたにとってどんな年になったでしょうか。1年間ですごく心身ともに成長したと感じている人、身長は伸びたけど心のほうはあまり変わってないと感じる人、あるいは、成長ではなく退化してしまったと感じている人もいるかもしれません。今あなたがどう感じているかは少し横におき、あなたにそう感じさせている根拠・原因は何でしょうか。何を根拠にあなたはこの1年間に成長できたと感じているのか、逆に、何が原因となって成長できなかったと感じることになったか。

それを追求し、次の学年に活かしていきましょう。成長できたと感じる根拠となっていることはさらに伸ばし、成長を妨げる原因は解決して取り除いた上、新しい学年を迎えてください。

## ◆◆考えてみよう～臨時休業中の校長からの課題です～◆◆

(課題について)

とても難しい課題です。おそらく大人でもこの課題の答えを出すのは困難です。しかも答えは一つではないし、これが絶対的に正しいという答えがあるのかもわかりません。だから、自分の考えを持つだけでよいです。

課題への取り組み方として、まずはあなた自身の考えをだすために、次の手順を踏んでください。

①課題の文章等を読むとわからない言葉だらけだと思います。まず、わからない言葉が出てきたら、必ずネットを使ってもいいですから、その言葉について調べてみてください。

②文章の意味がすべて理解出来たら、ネット上にいろんな人の考え方が掲載されていますから、複数の方の意見を読んでみてください。それを参考にしながら、自分の考えをまとめてください。

★これらの課題を実際に解決するのは、今の大人ではなく、あなた方、今の中学生や高校生あるいは小学生の年代の人が、将来、本当に解決にあたらなければならない社会の課題であることを認識してください。それから、将来本当に求められ役に立つ人物というのは、勉強だけができる人ではなく、まずはきちっと目の前の課題に向き合い、自分でその解決策を考え、自分でそれを実行していける人であることを念頭においてください。そのうえで、しっかりと課題に取り組んで下さい。

## ○課題の手始めに⇒『主体になるということ』(次の文章を読んでください)

電車には、運転手と車掌という鉄道会社の社員が乗って、列車を運行している。将来、働く人口の減少から、列車運行はすべて人工知能が行うことになり、運転手も車掌も列車に乗らないことになれば、あなたは安心して列車に乗れるだろうか。想像してほしい。もし事故が発生したら、誰がその事故に最初に対応するのか。

実は既に列車に運転手も車掌もない自動運転の鉄道がいくつかある。しかし、それは踏み切りなどが無いモノレール的な鉄道に限られていて、踏切などがあり事故が発生する確率がある程度あるものに関しては、自動運行が認められていない。しかし、将来的には働く人口の減少から、鉄道の運行はすべて人工知能による自動運転になっていくと考えられる。



(裏面へ)

では、その鉄道において事故が発生したらどうするのか。テロが発生したらどうするのか。考えてみてほしい。

今なら、そのようなことが発生したら、運転手や車掌などの鉄道会社の人が見先に対応して、乗客の安全等を図ってくれると誰もが考えており、それをもとに安心して鉄道を利用しているのだと思う。

しかし、最近、車掌が乗っていないワンマン運転の列車が多くなってきている。地元の京阪電鉄にしても、本線は別にして支線での列車運行はすでにワンマン運転となっているし、JRの地方路線では、かなりの列車がワンマン運転となっている。ではこの列車が踏み切りに無理やり突っ込んできたダンプカーと衝突したらどうなるか。列車を運転している運転手は、当然一番前に乗っているのだから、一番命の危険に晒されることになる。つまり大きな事故が発生したら、運転手は乗客を助ける側ではなく助けられる側になる可能性が高い。車掌が乗務していれば鉄道会社の人に対応できるが、ワンマンではそれが出来ない。つまり、すでにかかなりの鉄道会社で、列車は人工知能による自動運転をしているのと同じ状況になっているのである。

では、あなたがワンマン運転の列車に乗っていたり、あるいは将来人工知能が運転する列車に乗っていて、その列車にダンプカーが突っ込んできて、運転手や乗客の何人かが負傷する事態が発生し、あなたは怪我をしていないか軽症で、同じように怪我をしていない人がたくさんいたとしたら、そのときあなたはどうするか。考えてみてほしい。

ぼんやりと考えれば、誰もがすぐに負傷している人を助けると答えるだろう。でもそれは、自分が先頭に立ってするのではなく、誰かが助ける行為を始めてその人が他の人に助ける指示を出してからではないだろうか。その状況で、あなたは助ける行為を先頭に立って始め、他の人に指示して行うことが出来るだろうか。



その判断の機微が、あなたが「主体的自発的に行動できる人」であるか、「指示待ち族」との分かれ際であり、ましてや、いっぱい大丈夫な人がいるんだから自分がやらなくても誰かがやってくれるだろうと見ている人にいたっては、「してもらい族」ということになるだろう。

あなたは、どれに属するか真剣に考えてほしい。そして、自分という人間を分析し、これからどうする必要があるか考えてほしい。

最近、電車に乗っていて、高齢の方や障害をもった方、あるいは小さい子を連れている人やあかちゃんがお腹にいる方に、席を譲れない人が増えてきているとネット上に書かれている。電車で席を譲るのは日本の美点と考えている人が多くいるかもしれないが、実はヨーロッパやアメリカなどの国では、日本よりはるかにそのような点がすすんでいて、当たり前前にみんなが席を譲っているということである。

では、何故そのようなことになっているのか。私は、日本人に主体性・自発性が育っていないからだと考えている。人によっては利己主義的発想が育っているからとも考えられる。席を譲ろうと思うが勇気が出ず、迷っていると別の人譲ってしまったたり、駅についてしまったという人もいるだろう。その人は、指示待ち族である。そして、誰か別の人譲るだろうと考える人は、してもらい族である。更に言えば、自分の席を確保することを優先する人は、利己主義者である。

社会において、誰もが「自由」を保障され、快適な社会を築こうとすれば、そこには誰もが負わねばならない「責任」が発生する。その「責任」をみんなが平等に負っているということを意識し自覚できていなければ、利己主義者を育てることになる。

その「責任」の第一にあたるのは、基本的に個人は「主体的・自発的」に行動できなければならないということである。国を統治する側（特に封建社会などでは）からすれば、国民が「主体的・自発的」であるということは、悪であり邪魔でしかない。日本は、封建社会が芽生える平安中期から江戸時代までと、それに続く、明治・大正・昭和20年までもの長い間、封建社会かあるいはそれに近い社会が続いてきた。逆に言えば、第二次大戦後になって、初めてこの「自由」という概念が国民に与えられたということである。与えられた「自由」であるが故に、「自由」に伴う「責任」を自覚しにくかったということもあると思われる。



「主体的・自発的」なことが悪や邪魔と考える社会が続き、「自由」が与えられたものであるが故、今でも日本では個々の人格や性格の違い、考え方の違いを尊重することが出来ず、誰もがみんなと同じようにしようとするし、そうしていることに安心を感じる。(山中だより 第28号 その2に続く)

# 山中だより

山中 してもらおう  
キャッチ させられる人から  
フレーズ する人へ

枚方市立山田中学校 学校通信 第28号 その2

発行 令和2年3月16日 校長 交久瀬 善浩

## ●第28号 その1からの続き

さらには、「主体性・自発性」を発揮する人を、みんなと違うことをするというで仲間として認めなかったり、ひどい場合は「いじめ」の対象としてしまう。これは日本社会全体に染み渡っていることで、マスコミを含め、自分たちもいじめに加担しているのだということにすら気づいていないのが現状である。

この点がヨーロッパなどに比べ根本的に異なっている点で、「自由」を自ら勝ち取ってきた国や民族においては、誰もがお互いの違いを認め合い、「責任」を自覚するようになる。

だから電車においても、自ら他者の状況をよみ、自分の意思で迷わず席を替わっていく。「自由」社会を維持するための一人ひとりの「責任」を果たしていく。相手が可哀想とかしんどそうだから、相手のことを慮って替わるという日本的発想ではなく、「自由」社会を守るという自分の正義や責任を果たすという自分の正義のために席を替わるのである。日本的発想では、席を替わった側は「やったってる」という強い立場になったり、替わってもらった人は低姿勢にならないといけなかったり、人によっては自分が相手にしてあげたことに対する見返りを求めるような発想（したってるのになんやあの態度は！という発想）になったりという悪い点が出てくる。しかし、全てを自分のために行うという「主体的・自発的」な姿勢からは、このような発想は絶対に出てこない。



これから日本は、この「主体的・自発的」発想を、みんなが持てるようになるような社会を築いていかないと、大変なことになると私は考えている。特に、10年・20年先の日本を支える現在の高校生や中学生の年代のみなさんには、是非ともこの「主体性・自発性」を身につけてほしい。そして次に書いてあるような、日本の大きな困難な課題を解決し、あなたの日本という国を築いていってほしい。「誰かが何とかしてくれる」「そんなことは自分がしなきゃいけないことじゃない」「自分が動かなくても何とかなる」「困ったことになっても自分の責任じゃない」というような考え方はやめて、「自分の住む国だから、自分が住む地域だから、自分が責任を持って、自分のためにやっていく」という発想で、課題に取り組んでほしい。すべて、あなた自身にも関係してくることなので、他人を頼るのではなく、自分でやってほしい。みなさんに成長（主体性・自発性）に大いに大いに期待しています。

それでは、これから日本という国で、将来みなさんが本気で取り組まねばならないであろうと思われる課題を書きます。



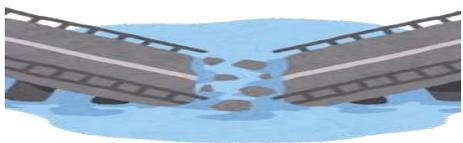
### 【課題】

- (1) 2030年から2035年にかけて、すべての都道府県で総人口が減少し、労働人口と非労働人口の割合が1対1程度になる。それに伴い、労働者の不足が深刻化し、すでに飲食・宿泊業や建設、農業などで人手不足が深刻になっているが、今後は公的分野（公務員）も含むあらゆる分野で人手不足が深刻化する。従って、あらゆる分野において、多数の外国人を受け入れる必要が出てくる。また人手不足解消のために、これまで人の手によって行ってきたことを人工知能やロボットにより行う必要が出てくる。それをどこまでとするか考える必要がある。



▲働く場に外国人を多数受け入れるということは、同時にその人たちが済む地域社会にも多数の外国人を受け入れるということである。その多数の外国人とどうやって地域社会を形成していけばよいのかが、みなさんの一番身近な課題となるし、みなさん一人ひとりが絶対にさけて通れない課題となる。また、人工知能やロボットにより動かす場合の責任の分担や費用をどうするかも課題となってくる。（裏面へ）

(2) 人口が減少すると、経済が縮小し税収も少なくなるので、上下水道や道路などの土木インフラや小学校のような教育施設を維持することも危うくなる。特に小学校や中学校は子どもの人数が激減するので、小学校や中学校のない市町村が相当数(市町村の半分程度)発生する。さらに、水道料金などは現在の6割以上の額(1.6倍以上)を値上げしないと事業が成立しなくなる。



▲現在ある道路や橋などのインフラはかなり老朽化がすすんでいるが、それを改修したり新しいものを作るには、費用と労働力が必要だが、それを出すことができなくなる。どうすればよいか大きな課題である。

(3) 医療、介護や年金などの社会保障給付費は、2016年度の116.2兆円が2041年度には190.7兆円に増えると予測されている。



▲社会保障費は、高齢者が生きていく上で絶対に必要なものであるが、労働人口と同数となる高齢者人口を今と同じように支えることは至難である。もっともつらくしんどい課題であるが、これをどうやって解決するのか。きれいごとではすまないとても大きな課題である。

(4) 健康保険組合連合会が公表した医療費の将来予測では、医療保険医療費は、2015年度の39.5兆円が2025年度には53.8兆円、約36%増加する。それに伴い被保険者1人あたり保険料は、2015年度の47.6万円が、2025年度には65.7万円に急増する。



▲医療保険費も、高齢者が増えれば当然高額になる。高齢者の医療をどこまでの基準で行うのか等も含め、つらい決定をしなければならないことも予想される。2025年の額を書いているが、2040年頃には、もっと高額になっているのだから、これまた大変大きな課題である。どうやって解決するか。

(5) 国の借金(国債等の発行によるもの)をどうするのか。これについて次の記事を読んでください。

・毎年巨額の財政赤字を垂れ流し、すでにGDPの200%を超える公的債務を抱える日本の財政は人口減に伴う経済社会の激変に耐えられそうもない。財務省が2014年に公表した2060年度までの財政の長期推計によると、現実の経済の近い前提(実質経済成長率1%、名目経済成長率2%)の場合、たとえば、2021年度対GDP比で12.89%の財政収支改善を行わないと、2040年度過ぎに対GDP比の債務残高は500%まで膨張し、借金は永遠に返済できなくなる。対GDP比で12.89%という金額は、2021年度時点の数字に直すと約82兆円に相当する。仮にこの時点の消費税を税率1%で3兆円とするなら消費税率は27%相当だ。これほどの消費税率は政治的にはほとんど不可能な数字だと言える。



▲これらの状況を分析し、アメリカの有名な投資家のジム・ロジャーズ氏に、「私がもし10歳の日本人なら、ただちに日本を去るだろう。」と言わしめている。しっかりとどうすれば良いか考えてほしい。少し調べるだけでいろんな考えが出ているので、それらも参考にして、あなたならどうするか答えを持ってほしい。将来、あなたが選挙権を持ったときに、誰が一番しっかり考えている立候補者かわかるはずなので、しっかり選挙に行って投票し、政治にも参加してほしい。

取り敢えず5つの課題を書きましたが、実はもっともったくさんの課題があります。他にもいろんな課題があるので、それらも調べて、あなたの答えを考え、それに従った行動が取れるよう自主性自発性を大人になるまでにあなたの中で育て獲得し、困難な社会に立ち向かえる人になって下さい。

とてもながい山中だよりになりましたが、コロナウイルスによる臨時休校措置で、皆さんは十分な時間があると思うので、じっくりと時間をかけて考えてください。

臨時休校中の課題として、私からの課題とします。とても難しい課題ですが、みなさんに対する思いと期待を込めて書きました。みなさんの将来の活躍に期待しています。